

2012年8月JICAルワンダ事務所から公示された無収水削減対策の研修実施について協議するために出張しましたので報告します。

ルワンダ国とは:

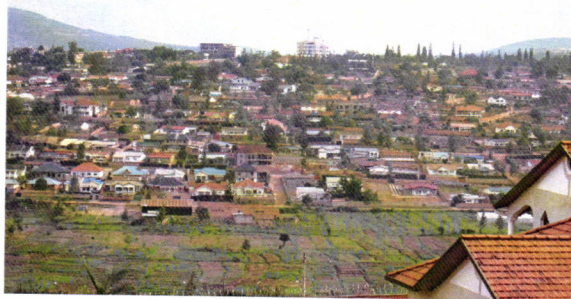
中部アフリカに位置する共和制国家で内陸国である。首都はキガリ市で、アフリカで最も人口密度が高い国である。ルワンダ国は、赤道直下にあり熱帯サバンナ気候に属しており、平均標高は1,600mの高原で“千の丘の国”と言われるほど起伏の多い地形です。1994年、ツチ族とフツ族の対立から火がついたジェノサイド(大量虐殺)事件は人々の心に深い傷を残しています。「ホテル・ルワンダ」という映画を見ましたが、このホテルは現在でも多くの観光旅行者が宿泊しています。また、国民は悲しみが消えたわけではないが、一生懸命に立ち上がってきています。特に女性の国・地方の議員数は世界でも1番多い国です。



ホテル・ルワンダ

キガリ市内の状況:

市内には、10数個の丘があり、住民は丘の頂上部から家を建てて住んでいます。各家と家の境には、ブーゲンビリア等の木を植えてありこの木に咲く色とりどりの花が平和を象徴しています。交通手段は、マタツというワゴン車と単車タクシーが走っていますが、ほとんどの車は日本の中古車で、日本の会社名を記載したままで走っています。日本からタンザニア国に船で運搬し、その後陸送してルワンダ国に運び販売しています。



丘の上から家々が建てられる

水道事情:

今回の役務提供は、2011年に日本で水道の無収水削減対策の研修を受講した職員の提案により、エネルギー・水衛生機構(EWSA(Energy Water and Sanitation))がJICAルワンダ事務所へ専門家の派遣を要請してきました。業務内

容は、EWSA関係者とキガリ市の水道施設や運営状況を協議して無収水削減対策に係る研修計画の策定、研修に必要な情報収集です。

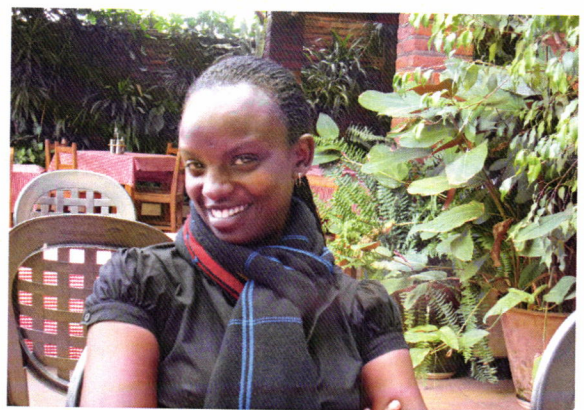
キガリ市の水道は、河川水、地下水、ダム湖を水源として浄水場で処理した水道水をポンプで市内にある丘の上に建設した配水池に送水し、この配水池から市内に給水しています。一部では送水管から直接給水している地区があり、水圧が高いため、埋設されている耐用年数を過ぎたPVC管の継手部分からの漏水が多く発生しています。漏水箇所は、民間企業が修理していますが、修理機材が不足しているために漏水を発見しても修理に時間がかかっています。漏水調査は実施せず、漏水が発生したら修理する作業を行なっています。現在の無収水率は35%ですが、無収水率を下げるためには、先行して漏水調査を実施する必要があります。

無収水率を下げるためには、職員の人材育成研修が必要です。2013年2月に実施する研修内容についてEWSA幹部職員と協議し、技能職職員研修、技能職ベテラン職員研修、技術職研修の3本建てで研修を行うことにしました。研修を必要とする幹部職員については、2012年11月に名古屋市に3名、横浜に1名を選定して研修に参加させました。(2013年2月からは、横浜ウォーター(株)の社員を役務提供でルワンダに派遣して研修を実施しました。)今後も無収水率削減対策プロジェクトに対して積極的に技術協力を行なっていく予定です。



漏水の多い給水管

今回の派遣は短い2週間でしたが、EWSA職員との友情・情熱は、太いパイプで結ばれました。継続して協力していく必要があります。今年6月に横浜で開催するアフリカ開発会議(TICAD V)以降も引き続き研修・援助は続くと思います。今後も水道に関する技術援助を継続して実施していきたいと思っています。



協力していただいた秘書